

江口 佳澄さん 環境共生科学プログラム 13年度生

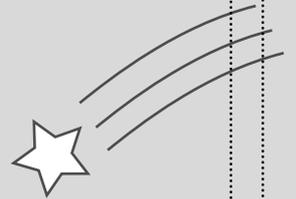
Q1. 去年の九月に幼稚園に行って、チビツ子達と一緒に遊んだことがとても楽しかったですね。当日は幼稚園のネイチャーデイという日で、外に行って花を摘んだりしました。元々、子供が好きだけどチビツ子は思いもかけないことをするので面白いし、一緒にいて癒されるような気分になります。その活動は月に一回あるのだけど、去年は忙しくて一度しか参加できなかったことが残念でしたね。

Q2. 実はあるイベントを三月に計画していて、そのイベントというのは豚から食を考えようという目的で、豚が豚肉になるまでを見学するツアーです。今までに環境活動等でお互い関わってきた人達と一緒に回る予定です。今までには就職したら仕事オンリーっていうイメージだったけど、このイベントの企画に参加してからはこれからも環境活動等を続けていこうと思うようになりました。



Q1. 去年一番楽しかったことは？

Q2. これから挑戦したいコトは？



Q1. 去年の夏休みに二週間ほどドイツへ初めて海外旅行に行きました。前半は普通のツアーのように観光したのですが、後半は広大に来ていた留学生の家へ滞在して、その友達のお父さんにいろいろと案内してもらいました。言葉はあまりうまく通じなかったのですが、ドイツの文化に直に触れることができ楽しかったです。特にドイツでは人づきあいに対する考え方が日本とは違って、相手がどんな人かに関わらず初対面でも気軽に話せることを体験し、自分の考え方も変わりました。

Q2. 今のところ大学院進学を考えているのですが、その前に一年休学してドイツへ留学をしたいですね。ドイツへ行ったらまず、ビールをたらふく飲みたいです。ドイツのビールは安いし、おいしいし、もう日本の発泡酒なんて飲めません(笑)それは置いておいて、ドイツへ留学してドイツ語を学んだ後は大学院で言語学について、特にマイナーな言語について学びたいです。今の言語学はやはり主流言語中心になっていると思うので、そうではないマイナーな言語、そして言語学全般について学びたいと思っています。



今西 一太さん 言語文化科学プログラム 14年度生

樋口 浩二さん 地域科学プログラム 15年度生

Q1. オリキャン当日が一番楽しかったです。というのも、あんなに大人数の中で楽しくやったのは初めてのことだったし、高校までとは違いオリキャンは本当に学生主体で企画・実行できるのでやりがいもとてもありました。また、一年生のために色々がんばっていく中で二年生との仲も深めることが出来たので良かったです。



Q2. 二つあって一つは卒論のテーマ選びの為に早めに専門の地域を決めることです。今のところ出身が福岡ということや関係のある本を読んだこともあって、筑豊炭田に興味を持っているけれど、具体的なことはこれから考えていきたいと思っています。これについては今の講義の中にもたくさんヒントがあるので見逃さないようにしたいです。二つ目は将来、英語の教師になる為に英語力を高めることです。この二つは互いに無関係ではないと思うので、上手く両立しながらがんばっていきたいです。

学生  
インタビュー

総

科

な人々

Q1. 高谷先生の地域研究実習 という授業で、甲奴町へフィールドワークに行ったことです。最初は下見に行き、それから地元の祭りを見に行き、三回目の本番で三泊四日の泊り込みをしました。昼には地元の人にお話を伺って、夜にはクラスメイトのみんなとその日あった事を話し合ったりして、そのことが一番楽しかったです。四回目には何人かの人から「三次町づくり大学」という講座で地元の人にプレゼンをしたりもしました。この実習を通して一致団結できる仲間を得たこと、そして今まで味わう事のなかったフィールドへ出て、現地の人とふれあうことを経験できたことがとても楽しかったです。



Q2. 当面の目標は来年の卒論や就職にむけて、自分を常に高いテンションに持って行って、楽しみながら過ごすことです。そしてこれは将来の野望なんですが、自分が引退した後にも自分の喫茶店を持てたいです。そのときにはピアノのうまい友人が、そうでなくともピアノを弾いてもらって、そんな雰囲気の良い店にあこがれています。これから厳しい時代の中で仕事をやめてからでも自分の好きな事をして、生き生きとして暮らす事を夢に思い描いています。

末廣 梨乃さん 地域科学プログラム 14年度生

齋藤 恵さん 情報行動科学プログラム 15年度生



Q1. やっぱりオリキャンかな。私たちが一年生の時は雨が降っていたから、晴れただけでも嬉しかったし、個人的にはある企画でアヤヤを踊れたり、騎馬戦も初めて経験できたりしたので本当に楽しかったです。でもオリキャンが終わったら、いつも一緒にいる人がある程度決まってきたので、そこは寂しいところですね。

Q2. 二つあるんだけど、まず一つ目は自分の持っている可能性を引き出せるような力を持つこと。そして二つ目は自分のことをあまり悲観的に捉えるのではなく、未来の自分を想像することによってこれからの辛いこと、苦しいことを乗り切っていくことです。

土持 李恵さん 16年度生

Q1. 学祭の準備が楽しかったです。というのもみんなとより仲良くなれたし達成感もありました。特に準備をしていく中で人脈が増えたことが一番嬉しかったですね。でもテントの装飾なんかは、いざ実際やってみるとなると思うようにいかないこともあって大変でしたよ。

Q2. 実は家庭裁判所の調査官になることが私の夢で、というのも元々心理学に興味があったし、少年犯罪の増加や家庭内に問題の多い今の社会を何とかしたいと思うようになったからです。そのためにも関係のある分野の本を読み、また講演会に参加することによって知識を深めたいと思っています。



久保 嘉宏さん 16年度生



Q1. 夏休みに二週間程一人旅をしたことですね。実家のある神戸から出発し、山口、博多、広島、倉敷、滋賀と旅行して友達に会いに行ったりしました。考える時間がたくさんあったために、電車で移動するにつれて心が穏やかになっていきました。また、旅先で見た色々なものに大きく刺激されたとし、哀愁を覚えつつ自分を振り返ることで、より自分の深い部分に辿り着いた気がしましたね。

Q2. 文学的知識を増やすためにも常に本を多読していきたいです。そして芸術・映画・宗教等について掘り下げていきたいと思っています。また、本や映画を見た後は、それに対する自分なりの意見・考えを言葉に表すことによって、頭の中の考えを文字にまとめる訓練をしたいです。

(担当 16生 金本和也 田中栄一郎)

プログラム登録は2年次からですので、16年度生のプログラム名は未記述となっています。